

渡波駅前で大バザール **600人** とん汁350食、米、野菜、衣料品 長蛇の列



出発前の打ち合わせ

長蛇の列



終了後 ボランティア全員で



パキスタン、シリアの代表挨拶



豚汁350食



衣料品コーナーも大好評

六月四日、渡波駅前にて大バザールを行い、六〇〇人が集まり、食料、日用品、衣料品を配布。長蛇の列となりました。
とん汁も三五〇食すべて配食。また、パキスタン・シリアのボランティアによるカレー千食分も合流しました。この行動には、世田谷、狛江、系満市、千葉、神奈川・北部・川崎中部など総勢五〇名が参加。原発ゼロ署名が「四四筆あつまりました。被災者から 原発を早く無くして」の声が寄せられました

石巻商工会議所 党本部へ

引き続き力貸して

宮城県・石巻商工会議所の阿部淳副会頭ら九人が二日午前、日本共産党本部を訪問し、市田忠義書記局長、穀田恵二国対委員長と懇談しました。
市田、穀田両氏は「五月に石巻市を訪れて懇談して以来、旧知の間柄のようですね」とのべ、終始なごやかな話し合いに阿部氏は「日本共産党のみなさんの実直さにほれていきます。赤旗」でも私たちの思いをしっかりと受け止めてもらい、身近に感じました。二次補正予算の成り行きも注目されますが、引き続き力を貸してほしい」と訴えました。それに対し、市田氏は被災地を訪問し、現地のみなさんの生の声を取り入れて、大震災にあたっての党の第二次提言を作り「ました。」と語りました。続いて内閣不信任決議案につ

いて、菅内閣を信任できないという党の政治的立場は変わらないが、自公の党略的で無責任な態度にはくみしない、また大震災、原発事故の危機的状況が続くもとで棄権する立場を決めた」と説明しました。商工会議所側からは「不信任案が可決されたら、総選挙をやるという人に、被災地の現状をみてほしい」との声が上がりました。

市田書記局長より 救援センターへ 激励の電話



四日昼には、懇談した市田忠義書記局長から、日本共産党震災・救援対策センター（石巻）へ激励の電話があり、三浦本部長が受けました。
市田書記局長「段取りを良くとっていただき懇談は大変盛り上がりました。石巻救援センターの活躍は党本部でも話題になっていきます。」